

補助金活用で耐震改修を受注



▲ビニールで仕切りを作ることで住みながらの工事が可能



▲耐震工事に注力している

同社の大工は全員、日本木造住宅耐震補強事務所では、室内外から壁補強9カ所、外付けホールダウント金物2カ所、屋根の軽量化などの耐震工事と屋根工事を行い、浦安市の耐震

要性を訴求し、納得してもらつことが重要と、平山社長は話す。築約40年の物件では、室内から壁補強9カ所、外付けホールダウント金物2カ所、屋根の軽量化などの耐震工事と屋根工事を行い、ができます。

性能向上 リフォーム 最前線

空設計

大工も耐震の 勉強が必須

同社が耐震において最も重視している点は、何度地震がきても耐えられる家にすることと、平山郁夫社長は話す。「地震

がくる度に家の強度はどうんじん落ちてしまします。1回の地震を耐えられることは高まりていいく。何回地震がきても安心な強度にするために、上部構造評点

がくる度に家の強度はどうんじん落ちてしまします。一般耐震技術認定者として工事はできないというと工事はできません」という

考えだ。「大工に図面を渡して『工事してください』と言いつても、金物を入れる。セミナーでは、国や自治体の補助金制度を活用するノウハウを説明。セミナー修了後、希望者は建築士に個別相談できる。セミナーを通じて顧客に耐震リフォームの必

要性を理解していないと実際に工事はできません。大工にも勉強してもらいますし、うちも勉強

れる場所など力学的なことを理解していないと実際に工事はできません。大工にも勉強してもらいますし、うちも勉強

れる。されど、建築士に個別相談できる。セミナーを通じて顧客に耐震リフォームの必

要性を訴求し、納得してもらつことが重要と、平山社長は話す。築約40年の物件では、室内から壁補強9カ所、外付けホールダウント金物2カ所、屋根の軽量化などの耐震工事と屋根工事を行い、ができます。

補助金を活用した耐震リフォームを得意としているのが空設計(千葉県船橋市)だ。市川市、浦安市、松戸市それぞれの市全体の補助金件数のうち、同社の実施件数が半分以上を占めるところもあった。日本木造住宅耐震補強事業者協同組合では技術向上委員を務め、現在、理事及び千葉県支部長を務めている。耐震診断実績は約1200棟、耐震リフォーム工事は約600棟。耐震リフォームの受注獲得や工事の工夫について聞いた。



平山郁夫社長



▲毎月3回「住宅リフォーム・耐震補助金セミナー」を開催

工事補助金を活用。診断、設計、監理、工事費の計297万円を1000円に抑えることができます。

住みながら 耐震工事が可能

同社では、住みながらでもできる耐震リフォームを工夫して行っていく。カーテンレールにビニールを巻き、天井と床につっぱり棒を立てて部屋を仕切る。そうすることで、床や天井からの埃を防ぐことが可能だ。「住みながらでも耐震工事はできる。お客様の負荷がかからないように施工していく」(平山社長)

一方、耐震リフォームの難しさも平山社長は指摘する。新築は比較的耐震強度を持たせやすいが、リフォームは壁を剥がすなど大規模工事になる。そうすると、工事費が高くなつて顧客の予算を超えてしまうこともあります。「しかも耐震リフォームは、自ら勉強しないとお客様に説明できないのでハーダルが高い。ですが、だからこそ他社との差別化につなげることができます」